

令和7年度 学校評価結果

上尾市立尾山台小学校

【評価の見方】
 4…大変そう思う 3…そう思う 2…ややそう思わない 1…全く思わない
A (平均3.4以上) 達成できた **B** (平均2.8以上3.4未満) 概ね達成できた **C** (平均2.8未満) 改善の必要あり
 ※ 総合評価については、後期数値の平均値によってA～C評価の判断をする。 ◎成果 ▲改善点 →改善策

	評価の観点		自己評価				総合評価	学校関係者評価
	項目		前期評価	前期数値	後期評価	後期数値		
I 学校運営	1	校務支援システムを効果的に活用している。	A	3.5	B	3.3	A (3.44)	・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。 ・効率的に業務支援システム等を活用している。 ・運動会について順位付けが問題となっている事は十分分かるが、徒競走において順位付けをしても良いのではないかと。当然、リレー等は順位付けがあった方が良い。順位付けは、子供の成長に繋がる部分もあると思う。 ・「1」、「4」については改善出来る様に進めてほしい。 ・授業間の休み時間5分は、準備等に先生、子供たちも大忙しだったと思うので、10分への変更は良いと思う。 ・日課表を変更することで、教師がゆとりを持って活動を行うことができる。
	2	校務分掌組織を機能させた協働体制の下、各会議の効果的な運営がなされ、共通理解が図られている。	A	3.4	A	3.4		
	3	学校の特色、実態に即した学校行事計画となっている。	A	3.4	A	3.6		
	4	学校の特色、実態に即した日課となっている。	B	3.3	B	3.3		
	5	個人情報等が適切に保管されている。	A	3.7	A	3.6		
◎校務支援システムの代わりに、Googleクラスルーム掲示板が設立されて情報共有がしやすくなった。校務負担減少に繋がった。 ◎運動会や音楽会、GETフェスティバルなど、児童が楽しく活動できる学校行事をPTAや地域の協力を得ながら計画し、実施することができた。 ◎職員会議実施前に、会議資料を回覧し、質問や意見等を集約することで、円滑に会議を進めることができた。 ▲各分掌の部会の時間を月に一度設定しているが、職員集会と同日の実施や、放課後の時間が少ないことから十分な活動時間が確保できていない。 ▲授業間の休み時間が5分(業間休み・昼休みを除く)と短く、教師も児童も余裕なく動かなければならないことも多い。日課の変更が必要である。 →授業間の休み時間を5分から10分にすることや、放課後の会議・研修等の実施曜日・時間を変更し、教師も児童もゆとりを持って教育活動を行うことができる新しい日課表を作り、次年度から実施する。								
II 教科等の指導・研修	6	教育目標を具現化し、取り組んでいる。	A	3.7	A	3.4	A (3.52)	・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。 ・概ね良好と判断できる。 ・積極的に取り組んでいる。 ・Googleクラスルームの活用など、欠席したとしても宿題の範囲など、学校の様子が少しでも分かるのは、子供本人も安心に繋がっていると思う。 ・自由進度学習は、子供たちの話から良い話を聞く。 ・自由進度学習では、取り組むことの時間配分を考えると、何から手をつけるか(段取り)を学んでいけると、一生役に立つと思うので良い。
	7	分かる授業のための創意工夫を行い、児童が活躍し進んで発表している。	A	3.4	A	3.5		
	8	ICT機器を積極的に活用した授業を実践し、必要に応じペーパーレス化を進めている。	A	3.4	A	3.5		
	9	教育課程の適切な編成と実施がなされている。	A	3.6	A	3.5		
	10	教育活動全般において、褒める教育を推進している。	A	3.7	A	3.8		
	11	校内研修(研究)に主体的に関わり、研修を深めている。	A	3.4	A	3.4		
◎Googleやスクールタクトを効果的に活用し、授業実践を行うことができた。プリントの配付・回収等の時間が省かれるため、効率的に授業を展開できた。 ◎自由進度学習に関しては、校内研修があったり、前年度までの資料の蓄積があったりしたので、初めての指導方法であったが研修を深めることができた。 ▲今の児童の実態を見ると、自由進度学習ではなく、規律ある授業づくりや学習の基礎・基本の徹底ができるような内容のものに変えてもよいのではないかとと思う。 →自由進度学習に対して、肯定的に捉えている児童が多いため、次年度も継続して実施する。しかし、学年の実態に合った実施回数、実施時期を十分検討し、実施することとする。個人の学習と一斉指導の割合も考える等して、より効果的な学習となるように研修を深める。 ▲目指す学校像が「明るくきれいに環境が整った学校」となっているが、教室環境の整理整頓がされていないことが多い。 →毎週金曜日、給食後の5分間を整理整頓タイムとし、教室環境を整える習慣を身に付けさせる。火曜・木曜については、給食後や5時間目の授業準備時間(5分)を活用し、簡単清掃を行う。								

Ⅲ 児童 理解	12	一人一人の児童理解に努めている。	A	3.7	A	3.7	A (3.70)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。 ・細かなところまで気配りのできる学校である。 ・概ね良好と判断できる。 ・児童が問題を起こした場合は、地域にも情報を提供してほしい。 ・SSR(スペシャルサポートルーム)、SRT(サポートルームティーチャー)、スクールロイヤーの話はあまり浸透していないように感じた。さらなる利活用をすると良い。
	13	いじめ・不登校の未然防止、早期解消に向けた取組を行っている。	A	3.9	A	3.7		
	14	関係機関と連携した生徒指導・教育相談体制が整備されている。	B	3.3	A	3.5		
	15	問題行動に対し、組織的な対応を心がけている。	A	3.8	A	3.9		
	<p>◎毎日の健康観察、養護教諭の保健記録、毎月の生徒指導・教育相談委員会での情報を全教職員で共有し、児童一人一人の実態把握に努めた。</p> <p>◎いじめ・不登校の未然防止、早期解消に向け、日々、校内の巡回を複数の目でを行い、情報を共有した。保護者による「子供見守り活動」も定着し、開かれた学校を作ることで、誰でも受け入れられる明るい雰囲気の学校になっている。</p> <p>◎問題行動があった場合は、即時に組織的に対応することを徹底することで、児童の行動に改善が見られた。</p> <p>◎必要に応じ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員、上尾市教育センター、医療機関等と連携し対応することで、誰もが安心して登校できる学校づくりを推進できた。</p>							
Ⅳ 安全・ 健康	16	安全指導を計画的に行い、児童の防災意識の高揚を図っている。	A	3.6	A	3.4	A (3.56)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。 ・概ね良好と判断できる。 ・外遊びが大好きな子供たちが素晴らしい。 ・地域の防災訓練にも参加して防災意識を高めてほしい。 ・登下校の見守りなど地域やPTAのボランティア精神に頼るのもいずれ限界を迎えることになる。とはいえ、働き方改革もあるので、しっかりと行政に予算をつけてもらえるように働きかけていただきたい。
	17	あらゆる危機を想定した訓練、危機管理体制が構築されている。	A	3.5	A	3.5		
	18	体力向上に向けた適切な計画と実施がされている。	A	3.4	A	3.4		
	19	安全点検を適切に行い、安心・安全で、明るくきれいな環境作りに取り組んでいる。	A	3.6	A	3.8		
	20	児童の健康を把握し、適切に対応している。	A	3.7	A	3.7		
	<p>◎1000m走記録会に向けたRunRunタイム、全校での大縄大会を実施することで、目標を持って意欲的に運動する児童の姿を多く見ることができた。児童・保護者アンケートでも、該当項目の結果に伸びが見られた。</p> <p>◎新体力テストで課題となった握力の向上を図るために、全校で毎時間の体育授業の導入で統一した運動を取り入れた。各学級に、教職員の握力の記録や各学年の県平均が載った表を配付し、児童が目標を持って運動に取り組むことができる環境を整えた。</p> <p>▲地震・火災に対応した避難訓練の実施が多かった。様々な危機を想定した訓練を行っていく必要がある。また、各避難訓練の実施時期についても、再考する必要がある。</p> <p>→来年度は、竜巻を想定した避難訓練を計画の中に位置付ける。また、不審者対応避難訓練は、年度当初に計画し、不測の事態に全校児童・全教職員が対応できるように計画する。</p> <p>▲実際の救急対応を通して得られた経験を踏まえ、緊急時において全教職員が共通理解のもと、迅速かつ確に対応できるよう、シミュレーションを取り入れた実践的な研修を計画的に実施する。</p> <p>→新年度当初、十分な時間を確保し、実践的な研修を実施する。</p>							
Ⅴ 特別支 援教育	21	特別に配慮を要する児童について、情報を共有し、指導にあたっている。	A	3.9	A	3.9	A (3.75)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。 ・概ね良好と判断できる。 ・良い指導を行っている。
	22	特別支援教育の視点に立った教育の推進、インクルーシブ教育に努めている。	A	3.6	A	3.6		
	<p>◎アップスマイルサポーター、特別支援学級補助員の適切な配置により、配慮の必要な児童への対応を意図的に行った。</p> <p>◎毎日、担任・教務・養護教諭・支援員・事務職員・管理職等、全教職員で特別に配慮が必要な児童についての情報を共有し、適時対応に努めた。</p> <p>◎毎月の生徒指導・教育相談委員会で、児童の様子を共有し、全教職員で共通理解を図り、対応した。</p>							

VI 家庭・ 地域連携	23	ICTを活用して積極的に、たよりやホームページ等で本校の教育活動や児童の様子などの情報発信に努めている。	A	3.7	A	3.7	A (3.48)	<p>・総合評価の結果が「A」であるのは、素晴らしいと思う。</p> <p>・概ね良好と判断できる。</p> <p>・ICTや学校メール配信システム等を積極的に活用している。</p> <p>・さくら連絡網の活用で、こまめな情報提供はありがたい。学校の見える化が進んでいる実感がある。</p> <p>・学校メール配信システムは便利であるが、十分目を通していないこともある。今後も様々な方法で積極的に情報発信を望む。</p>
	24	幼、保・小・中・高の連携が図られている。	B	2.9	B	3.0		
	25	配信メールや連絡帳、電話、個人面談、教育相談等で保護者との連携を図っている。	A	3.7	A	3.8		
	26	学校応援団や地域の教育力を活用した教育活動を行っている。	A	3.4	A	3.4		
<p>◎学校配信メール「さくら連絡網」を活用することで、学校・保護者・地域とが、迅速な対応、情報の共有をすることができている。</p> <p>◎学校ホームページの更新を定期的に行い、本校の教育活動や児童の様子を家庭・地域に発信できた。</p> <p>◎学校だよりに加え、尾山台「ホタルの光」大作戦・教育活動ピックアップを配信し、児童の活躍を参観することができる機会を周知することで、本校の教育活動や児童の様子などを家庭・地域に発信できた。保護者アンケートの該当項目の結果に伸びが見られた。</p> <p>◎小中一貫教育に向けて、瓦葺中学校区で小中や小の小の授業参観を実施し、児童生徒の実態把握をすることができた。また、夏季小中合同研修会、教頭、教務主任、研究主任による推進会議を複数回実施し、来年度の本格実施に向けて準備を進めることができた。</p> <p>◎校内音楽会では、地域の方の合唱を披露していただく機会があり、地域の教育力を感じた。</p> <p>▲学校応援団の高齢化が進み、人員確保が急務である。</p> <p>→さくら連絡網や学校ホームページ、懇談会等あらゆる手段を用いて、積極的かつ継続的に募集をかけていく。仮入団等を設け、まずは応援団の活動を体験してもらうなど、学校応援団について知ってもらうことから始めることも一つの手立てである。</p> <p>▲連絡帳や宿題なども積極的にICT端末にて配信している。保護者の方は、自分のICT端末からGoogleにログインして確認することもできるので、保護者の方にも確認していただくと有り難い。</p> <p>→学年だより、懇談会等を通して、保護者の方にも確認してもらうように周知する。必要な場合は、個別で連絡をとり、対応を依頼する。</p>								
VII 児童の 生活・ 学習・ 健康	27	児童は、進んであいさつしている。	B	3.3	B	3.2	B (3.16)	<p>・概ね良好と判断できる。</p> <p>・校長の挨拶などの熱心な取り組みが見えた。結果にも表れている。引き続き、努めてほしい。</p> <p>・以前より、校門前の挨拶運動は子供たちの声が大きくなった気がする。</p> <p>・子供が挨拶をしてくれることが増えた。</p> <p>・令和6年度に比べ、令和7年度はレベルアップしているので、さらに努力してほしい。</p> <p>・我々大人たちが声をかけると不審者と思われるケースがあり、先に児童から声をかけて大人がそれに応える様になれば良い。</p>
	28	児童は、言葉遣いに気を付けている。	B	3.0	B	3.0		
	29	児童は、きまりを守っている。	B	3.1	B	3.0		
	30	児童は、思いやりをもって生活している。	B	3.3	B	3.3		
	31	児童は、主体的に学習する態度が身に付いている。	B	3.1	B	3.1		
	32	児童は、計画的に授業準備や学習を進めている。	B	3.1	B	3.1		
	33	児童は、読書に親しんでいる。	B	2.9	B	2.9		
	34	児童は、進んで外遊びをしている。	A	3.4	A	3.5		
	35	児童は、睡眠や食事をしっかりと取っている。	B	3.3	B	3.3		
<p>◎挨拶運動等のおかげで、自ら挨拶ができるようになってきた児童が増えたと思う。挨拶に対して意識が高まってきている。</p> <p>◎自由進度学習の取り組みにより、学習の計画を自分で立てたり、学習の方法を自分で選択したりする力が身に付いてきている。県学力調査の結果からも該当項目で伸びが見られ、効果を感じている。</p> <p>◎「RunRunタイム」や「縄跳び検定」を設定することで、進んで外遊びや運動をする児童が増えた。</p> <p>▲児童の「本を読む習慣」については、個人差が大きいと感じる。読み聞かせの時間はあるが、自分で自由に本を選んで読むような時間は確保されていない。</p> <p>→「よむよむタイム」は、元々児童が自由に本を選び、読書をする時間として設定している。児童が20分間じっくり本に親しむ時間となるように、事前に本の準備を整え、確実に読書時間が確保できるように各学級で指導する。</p>								